

## The 13<sup>th</sup> European Symposium on Thermal Analysis and Calorimetry (ESTAC13) 参加報告

2022年9月19日から22日の4日間、イタリアのパレルモ大学を会場として、第13回となるESTACがオンサイトで開催された。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、2020年にポーランドのクラクフで開催を予定していた17th International Congress on Thermal Analysis and Calorimetryが、2021年9月に延期のうえ、オンラインでの開催となるなどにより、ヨーロッパでの熱測定関連の国際会議のオンサイトでの開催は、2018年8月にルーマニアのブラショフで開催された12th ESTAC以来、4年ぶりとなった。パレルモは、シチリア島の中心都市であり、地中海に面した観光都市でもある(写真1)。他の地中海沿いの都市と同じく、ローマ時代及びイスラム時代の名残が各所で感じられるエキゾチックな街並みが印象的であった。



写真1 高台(モンレアール)からパレルモ市街を望む

会議への参加者数は、150名程度で従前のESTACのおよそ3分の1程度であった。日本からの参加者は、有井忠氏(Rigaku)、川上互作氏(NIMS)と古賀(広島大)の3名に限られた。ポストコロナを先取りしたオンサイト開催であったが、コロナの影響による航空便数の減少、ロシアウクライナ問題による政情不安、極端な物価上昇など、ヨーロッパ圏内でも学会参加は容易ではない状況が伺われた。日本からの参加は、円安の影響を受け、さらに難しい状況であった。

9月19日夕刻の開会式は、ゴシック調の宮殿(Palazzo Chiaramonte)で行われた(写真2)。開会式に続いて、Prof. Dimitrios N. Bickaris (Aristotle University of Thessaloniki, Greece)による基調講演を兼ねたAICAT-TA Instruments Awardの受賞講演行われた。その後、Welcome Cocktailにおいて懐かしい顔ぶれと再会を喜んだ。



写真2 ESTAC13開会式

2日目からのアカデミックセッションは、パレルモ大学において開催された。ESTACでは前回より、熱測定の先達の名を付した賞を設け、受賞講演を基調講演あるいは招待講演とする方式をとっている。ESTAC13での受賞者は、“David Dollimore ESTAC Award”: Prof. Jaroslav Sestak (Czech Republic); “Eugen Segal ESTAC Award”: Prof. Luis A. Perez Maqueda (Spain); “Judit Simon ESTAC Award”: Prof. Ionut Ledeti (Timișoara); 及び “Jose Criado Award for Innovation & Promoting of Thermal Analysis”: Prof. Mike Reading (UK)であった。先に述べたAICAT-TA Instruments Awardに加えて、新たに国際熱測定連合(ICTAC)により若手研究者の支援を目的に創設したICTAC Promising Researcher Awardが、Rigakuのご支援を受け2022 Rigaku-ICTAC Promising Researcher AwardとしてDr. Maria Chountoulesi (Greece)に授与された。各受賞講演とスポンサー講演を全体セッションとして、一般口頭発表を2会場でのパラレルセッションとして運営された。また、2日目と3日目の夕刻に1時間の時間を取ってポスターセッションが開催された。一般口頭発表は56件、ポスター発表は111件であった。

3日目の夕刻に、市内のレストランの中庭で、Conference Dinnerが催された。突然の夕立のハプニングもあったが、ヨーロッパ各国の研究者と親交を深める機会となった。

会に先立ち、9月18日にICTAC Executive meetingが、また19日午前にはICTAC Councilor meetingがハイブリットモードで開催された。Councilor meetingには、川上氏に参加いただき、本会主催のVirtual International Assembly on Calorimetry and Thermal Analysis 2022 (2022.10.25~27, online)と26th IUPAC International Conference on Chemical Thermodynamics (2023.7.30~8.4, 大阪)の開催について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションにより広報いただいた。同様に、3rd Journal of Thermal Analysis and Calorimetry Conference (2023.6.20~23, Balatonfured, Hungary)及び7th Central and Eastern European Conference on Thermal Analysis and Calorimetry (2023.8.28~31, Brno, Czech Republic)について各開催国から案内があった。また、ICTAC Councilor meetingでは、次回の18th International Congress on Thermal Analysis and Calorimetry (ICTAC18)の開催地について議論した。2件の開催地の立候補国からのプレゼンテーションの後、各国Councilorによる投票により、開催地を決定した。ICTAC18は、Buda Gaya (India)において2024年9月2日~7日の予定で開催されることに決した。

ESTAC13の閉会式の後に、ICTAC Scientific Committeeのシンポジウムが開催された。ICTACでは、Scientific Committeeとして、Kinetics, Thermodynamics & Thermochemistry, Materials, Instruments & Methods, Standard & Nomenclature, Life & Environmental Sciences、及びEducationの委員会を設置し、熱測定の普及と標準化に向けた活動を行っている。このうち、Standard & Nomenclature及びEducationのCo-chairとして阿部陽香氏(産総研)と加藤勝美氏(福岡大)にそれぞれご協力いただいている。シンポジウムでは、各委員会の活動状況が報告された。特に、Kinetics委員会は活発に活動しており、2022年には速度論解析のガイドラインを議論した2件の総説を出版したことが報告された。また、各委員会の今後の活動の具体について活発な議論が交わされた。

オンサイトでの国際学会の開催により、学術面でも学会運営の面でもより深い議論が可能となることを改めて認識した。一方で、国際学会で多数の参加者を得るためには、まだまだ困難が多く、洗練されたハイブリッドモードにより、これらの困難を克服して国際的な学術活動の継続的な展開を図るべきと強く認識した。

(広島大院人間社会科学 古賀 信吉)